

製品名: DDR1 (リン酸化 Tyr513) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04543**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	110kDa

抗原情報

遺伝子名	DDR1 DDR1; CAK; EDDR1; NEP; NTRK4; PTK3A; RTK6; TRKE; Epithelial discoidin domain-containing
別名	receptor 1; Epithelial discoidin domain receptor 1; CD167 antigen-like family member A; Cell adhesion kinase; Discoidin receptor tyrosine kinase; HGK2;
遺伝子 ID	780.0
SwissProt ID	Q08345
免疫原	抗血清は、Tyr513 のリン酸化部位周辺のヒト DDR1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 479-528

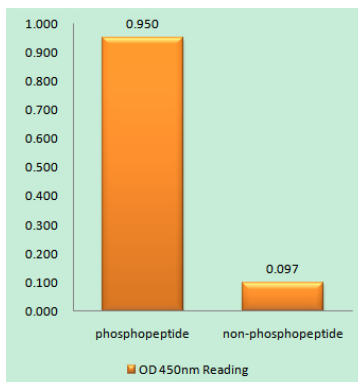
背景

受容体チロシンキナーゼは、細胞とその微小環境とのコミュニケーションにおいて重要な役割を果たします。これらのキナーゼは、細胞の増殖、分化、代謝の調節に関与しています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、細胞性粘菌 (Dictyostelium discoideum) のタンパク質ディスコイジンIと細胞外ドメインにおいて相同性を持つチロシンキナーゼ受容体のサブファミリーに属し、様々な種類のコラーゲンによって活性化されます。このタンパク質の発現は上皮細胞に限定されており、特に腎臓、肺、消化管、脳で顕著です。さらに、いくつかのヒト腫瘍において有意に過剰発現していることが示されています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。 [RefSeq 提供、2011年2月],触媒活性: $ATP + a \text{ [protein]-L-チロシン} = a \text{ [protein]-L-チロシンリン酸}$ 。ドメイン: グリシン/プロテインリッチドメインは、リガンドまたは基質との特殊な相互作用に必要となる可能性がある。機能: 細胞間相互作用および認識に関与する可能性がある。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。チロシンタンパク質キナーゼファミリー。インスリン受容体サブファミリー。類似性: F5/8 タイプC ドメインを1つ含む。類似性: タンパク質キナーゼドメインを1つ含む。組織特異性: 成人のほとんどの組織では低レベルで発現しており、脳と肺で最も高いレベルで発現している。乳癌細胞株に豊富に含まれます。、

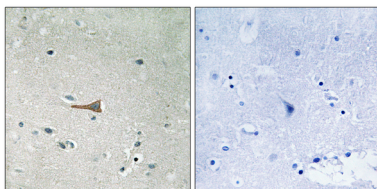
研究分野

-

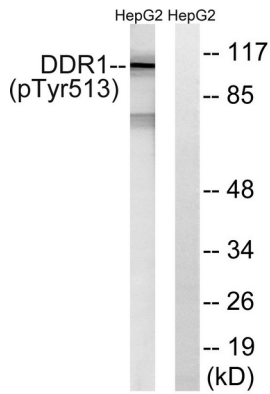
画像データ



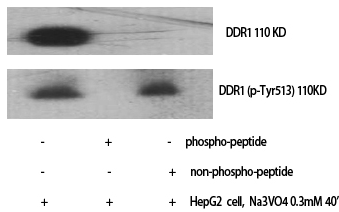
DDR1 (リン酸化 Tyr513) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



DDR1 (リン酸化 Tyr513) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



Na₃VO₄ 0.3 mM 40' で処理した HepG2 細胞ライセートの DDR1 (リン酸化 Tyr513) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 DDR1 (Y513) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析